

主 題：ザアカイの救い

聖書箇所：ルカの福音書 19章1-10節

今日はルカの福音書19章1-10節を学びます。皆さんがよくご存じのザアカイの救いに関する箇所です。

1) ルカ9：51-19章 エルサレムへの旅

ルカ9：51にはこのように書かれています。「さて、天に上げられる日が近づいて来たころ、イエスは、エルサレムに行こうとして御顔をまっすぐ向けられ、」、イエスはガリラヤでの伝道を終えてエルサレムへと向かうのですが、その旅の始まりがこの9：51からで、9章までその旅路のことが記されています。

19：28の後半にはこのように書かれています。「…イエスは、さらに進んで、エルサレムへと上って行かれた。」と、この後、イエスのエルサレム入城があるのです。

2) 18：1-14 祈りについて=パリサイ人と取税人の祈り

ザアカイのことを学ぶ前に18章を見ます。18章は大きく四つに分けることができます。一つ目は18：1-14です。ここには「祈り」について書かれています。それはパリサイ人と取税人の祈りについてです。14節に「あなたがたに言うが、この人が、義と認められて家に帰りました。パリサイ人ではありません。…」とあります。取税人が義と認められたとみことばは教えます。取税人が救われたのです。

3) 18：15-30 神の国とは

その後、15-30には「神の国にふさわしい者」についてルカは記しています。

- ・ 18：18-30 ある役人の話（並行箇所 マタイ19：16-30、マルコ10：17-31）
この役人はイエスにこのように尋ねました。18節「尊い先生。私は何をしたら、永遠のいのちを自分のものとして受けることができるでしょうか。」、彼は「永遠のいのちをいただきたい」と思ってイエスに尋ねたのです。それに対してイエスは答えられました。22節「あなたには、まだ一つだけ欠けたものがあります。あなたの持ち物を全部売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい。」、そして、23節「すると彼は、これを聞いて、非常に悲しんだ。たいへんな金持ちだったからである。」と記されています。
- ・ 18：24, 25 イエスは「イエスは彼を見てこう言われた。「裕福な者が神の国に入ることは、何とむずかしいことでしょう。：25 金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。」と、神の国に入れる者は非常に少ないと言われました。それを聞いた人々は「それでは、だれが救われることができるでしょう。」（26節）とこのような反応をしています。
- ・ 18：27 そこでイエスはこのように言われました。「人にはできないことが、神にはできるのです。」と。神に不可能はないということです。救いは神の主権的行為だからです。ヨブはこのように告白しています。ヨブ記42：2「あなたには、すべてができること、あなたは、どんな計画も成し遂げられることを、私は知りました。」と。また、ルカ1：37には「神にとって不可能なことは一つもありません。」とあります。これがある役人とイエスとの様子です。

4) 18：31-34 三度目の十字架予告

5) 18：35-43 盲人のいやし

2. ザアカイのイエスとの出会い 19：1-7

19章からザアカイの救いが記されています。先の盲人は確かに彼の信仰によって目が開かれました。肉体がいやされたのです。ザアカイはザアカイの霊がイエスによっていやされたのです。私たちは今日、このザアカイの救いを通してもう一度私たち自身の救いを見ていきたいと思えます。1-7節にはイエスとザアカイの出会いのことが書かれています。

1) 19：1「エリコの町」

「それからイエスは、エリコに入って、町をお通りになった」、イエスはエルサレムに向かう旅の途中でエリコに入ったのです。エリコの町のことはヨシュア記6章に出て来ます。ヨシュアによって陥落した町です。詳しいことはヨシュア記6章を読むとよく分かります。この町はエルサレムの東北東約25キロのところにあります。死海の北側になります。ここでは「なつめやし」「バルサム」を多く産出していたので、それを輸出するためにローマ人の税関が置かれていました。

2) 19：2「ザアカイ」

ザアカイはその税関で人々から税を徴収する取税人だったのです。そのことが2節に「ここには、ザアカイという人がいたが、彼は取税人のかしらで、金持ちであった。」とこのように書かれています。彼はロー

マ帝国の税金を取り立てる、税の徴収の請負人だったのです。同時に、取税人たちは自分たちの立場を利用して私腹を肥やしていました。決められた以上の税を取って自分のふところにいれていたのです。だから、同胞のユダヤ人から汚れた者として蔑まれていたのです。イエスの弟子のひとりであるマタイも取税人でした。彼はカペナウムで取税人をしていました。そのことがマタイ9：9に書かれています。ザアカイは取税人のかしらで金持ちであったと書かれています。「ザアカイ」という名は「義人、きよい人」という意味があります。

3) 19：3-7「出会いの様子」

さて、ザアカイはイエスについてのいろいろな噂や評判を耳にしていたのでしょう。だから、「彼は、イエスがどんな方か見ようとしたが、…」(3節)、イエスがエリコの町を通られると聞いて、ザアカイはイエスが様々な町で人々を教え、また、病人をいやし、多くの奇蹟をされていた、そのような評判を聞いて、ぜひ、その方を見てみたいと思ったのです。4節に「それで、イエスを見るために、…」と書かれています。ザアカイはただイエスを見るだけでなく、何としてもエリコの町を通るイエスを自分の目で見たい、確認したいと思ったのです。別のことばで言うなら、ザアカイは「イエスを知りたい」と思ったのです。だから、彼は「…前方に走り出て、いちじく桑の木に登った。ちょうどイエスがそこを通り過ぎようとしておられたからである。」(4節)「背が低かったので、群衆のために見るができなかった。」(3節)とみことばは教えます。このことば「…前方に走り出て、いちじく桑の木に登った。」は、ザアカイがどうしてもイエスを見たいというその熱心さを教えています。彼はどのような方法をとってもイエスを見たかった、知りたかったのです。

さて、そのようなザアカイにイエスはこのようにことばを掛けられました。5節「…、上を見上げて彼に言われた。「ザアカイ。急いで降りて来なさい。きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから。」と。ザアカイとイエスはこれまで一度も会ったことはありません。だから、ザアカイはイエスの顔を知らなかったでしょう。もちろん、普通なら、イエスもザアカイを知らなかったでしょう。でも、イエスは木に登っているザアカイを見てこのように声を掛けられたのです。彼は同胞のユダヤ人から忌み嫌われていた取税人のかしらです。友だちがいませんでした。イエスから「ザアカイ」と声を掛けられたことの驚きと喜びは私たちの想像を越えたものであるかもしれません。もし、私たちがそのような者であったなら、ザアカイの驚きと喜びは十分に理解できます。だれも声を掛けてくれない私にイエスは声を掛けてくださったと。

そして、その後「急いで降りて来なさい。きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから。」と言われました。前もってザアカイがイエスに「今日は私の家に泊まってください」と懇願したわけではありません。イエスの方から「あなたの家に泊まる」と言われたのです。このイエスの行為はイエスの愛の現われです。皆さん、私たちもザアカイと同じように、神の愛が注がれていたのです。私たちはそのことに気付くことがなかったのかもしれませんが、でも、みことばははっきりと教えています。

☆私たちに對する神の愛

ローマ5：8 「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに對するご自身の愛を明らかにしておられます。」、私たちが神と敵對する關係にあつたときに、すでに、神は私たちを愛してくださっていたと教えるのです。

Ⅰヨハネ4：9-10 ヨハネもこのように教えています。「:9 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。:10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」

エペソ2：3-5 「:3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあつて、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。:4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、:5 罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです——」

さて、ザアカイはこのイエスのことばを聞いて「ザアカイは、急いで降りて来て、そして大喜びでイエスを迎えた。」(6節)、ザアカイは心から喜びに満ちてイエスを自分の家に招いたのです。しかし、それを見ていた周りの人たちは、7節「これを見て、みなは、「あの方は罪人のところに行つて客となられた」と言つてつぶやいた。」とあります。人々はイエスの為さつたことに不信感を抱いたのです。ここまでがイエスとザアカイの出会いの様子です。

3. ザアカイの回心 19：8

ザアカイが変えられたことを私たちはみことばから知ることができます。ザアカイの回心です。8節「ところがザアカイは立つて、主に言つた。「主よ。…」、3、4節には「イエスがどんな方か…」「イエスを見るために、…」と書かれています。でも、8節ではイエスのことを「主よ。」と言っています。ザアカイ

はイエスを「自分の主」と宣言したのです。ザアカイはイエスに出会って生き方が変えられたのです。「回心」について、ヘンリー・シーセンの「組織神学」から引用します。「回心とは、この神に立ち返る行為を指し、それは悔い改めと信仰との二つの要素から成り立っている。…しかし、人間は自分からは神に立ち返ることも、悔い改めることも、信じることもできない。先行的恵みによって、人間にできるようになることといえば、ただ、自分を神の方に向き返らせてくださいと神に願うことだけである。…人間がそのように主に呼ばれるなら、主は彼に真の悔い改めと信仰とを与えてくださるのである。」そうです。真の回心は「罪の悔い改め」と「イエス・キリストを主として受け入れる信仰」によって神に立ち返ることです。ザアカイは回心に至りました。8節の続きには「…ご覧ください。私の財産の半分を貧しい人たちに施します。また、だれからでも、私がだまし取った物は、四倍にして返します。」と書かれています。

4. イエス・キリストによる救い 19 : 9-10

1) 19 : 9 「アブラハムの子」

9節「イエスは、彼に言われた。「きょう、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なのでから。」とあります。今、救いがザアカイのところに届いたということです。そして、「この人もアブラハムの子なのでから。」と書かれています。それは、アブラハムと同じ信仰をもち、その信仰を証する者という意味です。創世記15 : 6には「彼は【主】を信じた。主はそれを彼の義と認められた。」と、アブラハムのことです。また、このことについてパウロはガラテヤ3 : 6-7でこのように言っています。「:6 アブラハムは神を信じ、それが彼の義とみなされました。それと同じことです。:7 ですから、信仰による人々こそアブラハムの子孫だと知りなさい。」と。ヨハネ8 : 39-40にもこのように書かれています。「:39 彼らは答えて言った。「私たちの父はアブラハムです。」イエスは彼らに言われた。「あなたがたがアブラハムの子もなら、アブラハムのわざを行いなさい。:40 ところが今あなたがたは、神から聞いた真理をあなたがたに話しているこのわたしを、殺そうとしています。アブラハムはそのようなことはしなかったのです。」。ザアカイはその生き方が変えられました。イエス・キリストによる救いがこの家に届いたのです。

2) 19 : 10 「人の子」

そして、10節に「人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。」と書かれています。

・「人の子」=このことばは福音書に81回使われていると言われていています。そのほとんどが、イエスご自身が自分を指して使われました。それはご自分が救い主であることを表わすことばとして用いられました。

・「失われた人」=創世記3 : 8-10には人間に罪が入ったことをこのように記しています。「:8 そよ風の吹くころ、彼らは園を歩き回られる神である【主】の声を聞いた。それで人とその妻は、神である【主】の御顔を避けて園の木の間に身を隠した。:9 神である【主】は、人に呼びかけ、彼に仰せられた。「あなたは、どこにいるのか。»:10 彼は答えた。「私は園で、あなたの声を聞きました。それで私は裸なので、恐れて、隠れました。」と。罪が人間に入ったとき、人間は神の前から隠れて、失われた人となったのです。エゼキエル書ではこのように書かれています。34 : 15-16「:15 わたしがわたしの羊を飼い、わたしが彼らをいこわせる。——神である主の御告げ——:16 わたしは失われたものを捜し、迷い出たものを連れ戻し、傷ついたものを包み、病気のものを力づける。わたしは、肥えたものと強いものを滅ぼす。わたしは正しいさばきをもって彼らを養う。」、そうです。失われた人はその後、暗闇を愛するようになりました。パウロはエペソ5 : 8で「あなたがたは、以前は暗やみでしたが、今は、主にあって、光となりました。光の子どもらしく歩みなさい。」と言っています。「人の子は、失われた人を捜して…」、このことばが意味することは、ただ単に、無くなったものを捜すというだけのことではなく、どうしても見つけ出してその人を尋ね求める行為、無くなったものを何としても見つけ出そうとする行為、それがここで使われている「捜す」ということばの意味です。

3) イエス・キリストがこの世に来られた目的 19 : 10

「人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。」、イエス・キリストがこの世に来られた目的がこの10節にはっきりと記されています。

a. 罪人を捜して救うため

一般的に「救う」ということばの意味は「危険、あるいは、悲惨な状態から、安全、安心な状態へと救出する」という概念を表わしています。キリスト教の福音の中心的テーマは「神が人を救う」ということです。イエス・キリストを信じるすべての者を罪とその罪の結果から救うこと、これが福音の宣言です。ヨハネ3 : 16「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」。イエス・キリストが唯一の救い主であることはみことばがはっきりと教えています。使徒4 : 12「この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていないからです。」と。は

つきりとみことばは教えています。イエス・キリストだけが私たちに与えられた唯一真の救い主であると。また、パウロはⅠテモテ1：15でこのように告白しています。「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世にいられた」ということばは、まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。』。ヨハネはヨハネの福音書14：6で「イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」と記しています。明らかです。イエス・キリストだけが私たちに与えられた唯一の救い主です。

・この「救い」は神の恵みである

私たちの行ないによって私たちは自分を救ったのではありません。そのこともみことばがはっきり教えています。エペソ2：8「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。」、救いは神からのプレゼントです。

・この「救い」は人を新しく造り変える

パウロはⅡコリント5：17でこのように言っています。「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」、また、コロサイ3：9b—10にも「…あなたがたは、古い人をその行いと一っしょに脱ぎ捨てて、：10 新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。」と記されています。他のみことばも見ましょう。ローマ6：17—18「神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規準に心から服従し、：18 罪から解放されて、義の奴隷となったのです。」、ガラテヤ2：20「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。」、このようにみことばは「救いは人を新しく造り変える」と教えています。

5. 結論

皆さん、ザアカイは金持ちでした（ルカ19：2）。18章に出てきた役人も金持ちでした（18：23）。しかし、その役人は悲しんでイエスのもとを去ったとマタイ19：22に書かれています。彼は主に従うことを自らの意志で拒んだのです。救われなかったのです。しかし、ザアカイは金持ちでしたが、彼は救われました（19：9）。「イエスは言われた。「人にはできないことが、神にはできるのです。」（ルカ18：27）、そうです！救いは神の恵みとあわれみによってもたらされるものです。私たちの救いもザアカイと同じように神の恵みとあわれみによるのです。パウロはそのことを私たちにすばらしいみことばをもって教えてくれています。エペソ2：3—5にこのように書かれています。「：3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。：4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、：5 罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです—」と。私たちが救われたのはただただ恵みによるのです。確かに、救われて永遠のいのちをいただきました。天国が約束されました。そして、みことばは私たちがこの地上を歩むその生き方をはっきりと教えています。

最後に、救われた私たちが天に凱旋するまでこの地上でどのように生きるべきなのか、そのことを三つ見てみたいと思います。

☆救われた者たちの生き方

a. 神を愛し、隣人を愛する

マタイ22：36—39には、律法の専門家の質問にイエスがこのように答えておられる記事があります。「：36「先生。律法の中で、たいせつな戒めはどれですか。」：37 そこで、イエスは彼に言われた。「『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』：38 これがたいせつな第一の戒めです。：39『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。」。イエスは神を愛し隣人を愛しなさいと言われました。では、神を愛するとは具体的にどのようなことでしょうか？ヨハネはⅠヨハネ5：3でそのことをはっきりと教えています。「神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。」。私たちは、この聖書に書かれている命令を守ることが、神を愛することであるとはっきりと知ることができます。

では、「隣人を愛する」とはどういうことでしょうか？同じように、ヨハネはⅠヨハネ3：18で「子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行いと真実をもって愛そうではありませんか。」。まず、私たちは神を愛し、隣人を自分自身を愛するように愛さなければいけません。そういう思いをもってこの地上の信仰の馳せ場を走ることを勧められています。

b. 仕える者となる

・イエス・キリストの模範

イエスはこの模範を私たちに示されました。マタイ20：28にこのように書かれています。「人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためであるのと同じです。」、イエスがこの地上に来られたのは神として仕えられるためではなく、かえって、自ら人に仕えるためであると教えています。パウロはピリピ2：7でこのように言います。「ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、」。私たちは神にも仕え、そして、人にも仕える、そのことが教えられています。

・ 神に仕える

Iテサロニケ1：9には「私たちがどのようにあなたがたに受け入れられたか、また、あなたがたがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、」とあります。

・ 人に仕える

また、パウロは人に関してガラテヤ5：13でこのように勧めています。「兄弟たち。あなたがたは、自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕えなさい。」、私たちは神に仕え、また、人にも仕え、そして、この信仰の馳せ場を走り抜かなければいけません。

C. 福音を宣べ伝える

三つ目は「福音を宣べ伝える」ということです。皆さんよくご存じのマタイ28：19-20に書かれている「大宣教命令」と言われるみことばです。「:19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、:20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。」。また、マルコ16：15には「それから、イエスは彼らにこう言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」と書かれています。パウロは愛するテモテにこのように書き送っています。IIテモテ4：2「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。」と。ローマ10：14-15もご覧ください。「しかし、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。:15 遣わされなくては、どうして宣べ伝えることができるでしょう。次のように書かれているとおりです。「良いことの知らせを伝える人々の足は、なんとりっぱでしょう。」。

救われた私たちは、神を愛し、隣人を自分自身のように愛し、神にも人にも仕えるようになって、神から託された福音を宣べ伝えるという働きを、天に帰るまで全うしなければいけません。

ザアカイは救われた後どのような人生を送ったのか、みことばは記していません。しかし私は、彼も同じように、神を愛し人を愛し、神に仕え人に仕え、そして、周りの人たちにイエス・キリストのことを宣べ伝えたのではないかと考えています。私たちは恵みによって救われました。私たちはこの救いによって新しく造り変えられたのです。だから、造り変えられた者は、主の命令に従って、天に帰るまで神が言われることに忠実に従っていかなければいけないのではないのでしょうか！